

【91】 三国山（その1）

三国山（みくにやま）という山は、日本各地にいくつも存在します。三国岳、三国峠など類似の地名も含めると、地図帳の索引でも十や二十とけっこうな数にのぼります。三国山や三国岳は読んで字の如く、三つの“国”の境界点に位置する山です。ここで“国”というのは明治維新以前の「武蔵」、「尾張」、「紀伊」などという国のことで、現在では都道府県に引き継がれていますから、三国山は三つの都道府県の境界点となっていることが多いのです。

さて、河川の間で見ると山地では国々の境界は尾根や稜線となっているのでその間の領域は河川の流域をなしています。三国山は3つの河川流域の境界、「流域界」又は「分水界」でもあるのです。例を挙げますと、東京に近い秩父山地の三国山（標高1834m）は、時計まわりに、上野（こうづけ、群馬県）武蔵（埼玉県）、信濃（長野県）の境界点で、河川の流域でいうと、それぞれ利根川、荒川、信濃川の流域ということになります。もちろん三つの国の境界点の山の名が三国山ときまっているわけではありません。

上例の秩父山地の三国山の南9kmの山稜上に、「甲武信ヶ岳」（こぶしがたけ）という三国山より有名な標高2475mの山があります。反時計回りに、甲斐（かい、山梨県）、武蔵、信濃の三国の境界点となっており、流域でいうと富士川、荒川、信濃川の流域です。甲武信ヶ岳は三国山といわれる資格は十分ありますが、三つの国の名の頭文字を一つずつ取った名前になっています。

（続）